

中関小でブリジストンが出前授業

外国人とのコミュニケーション学ぶ

外国人とのコミュニケーションが18
ケーションの取り方を学日、中関小（亀田浩太郎



児童たちが日本人役と外国人役になって、
コミュニケーションの取り方を学んだ

校長）であり、6年の約

110人が具体例を交え
ながら、自分が伝えたい
ことを正確に相手に話す

ことの大切さを学んだ。

同小校区内の防府市浜
方に防府工場があるタイ

ヤメーカー・ブリヂスト
ン（東京）の出前授業。

6年の4クラスと千葉市
のNPO法人企業教育研

究会とをオンラインで結
んで実施した。

児童たちは、グローバ
ル化が進んで海外の拠点

で日本人が勤務したり、
外国人が日本で働くこと

が増えていることなどを
学習。海外勤務経験のあ

るブリヂストン社員は、
外国人との仕事は、相手

のことを分かってほしい
と、自分の考えを伝えよ

うとするコミュニケーション
力が必要になると
アドバイスした。

その上で、班ごとに
日本人役と外国人役に

分かれて、手持ちの資料
を基に、盆踊りやパーベ

キューにどう誘ったら外
国の友達が来てくれるか

をシミュレーション。相
手の宗教や文化、習慣な

どによって話したいこと
の捉え方が異なることに

苦戦していた。

6年4組の岩永柚葵さ
んは「いい勉強になった。

外国人とコミュニケーション
を取るときは、丁

寧に接して、自分の考え
をしつかりと伝えられる

ようになりたい」と話し
た。

（吉野敦裕）